



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 258

2020.6

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2020年6月1日
編集・発行 一般財団法人千里文化財団

国立民族学博物館は再開の準備をはじめています

館内催しについて

みんぱく館内で実施する催しは、6月末日まで中止もしくは延期することが決定しております。また、再開以降も感染防止対策に努めてまいりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

特別展・企画展の予定について

特別展ならびに企画展の開幕日は、現時点下記のとおり予定しております。

- ◆特別展「先住民の宝」
2020年10月1日(木)～12月15日(火)
- ◆梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」
2020年9月3日(木)～10月20日(火)

ホームページならびにFacebookをご活用ください

このたびの臨時休館では、広報誌面で最新の情報をお届けできないなど、ご不便をおかけしました。最新情報は、みんぱくならびに友の会のホームページやFacebook等でご確認ください。

Facebookはページに「いいね!」してフォローしてください。最新の投稿がお知らせされます。

みんぱくと友の会のホームページ、Facebookのアドレスは裏面をご確認ください!

国立民族学博物館（みんぱく）は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、二月二十八日（金）より臨時休館を継続してまいりましたが、このたびの緊急事態宣言の解除を受けて、六月中旬の再開を目標に準備を進めておりますことをお知らせ申し上げます。

これに伴い、友の会の催しも、感染防止対策を講じつつ、順次再開する予定です。また、臨時休館期間中、ご入館いただけない状況が続きましたことについては、休館期間相当分の特別フリーパス（入館証）を会員のみなさまに発行いたします。発行申請の手続きにつきましては、『月刊みんぱく』七月号送付時に同封する案内書類をご確認ください。準備にお時間をいただきますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いたします。

臨時休館が長期にわたり、みなさまにはご不便をおかけしております。また休館期間中、温かい励ましのお言葉を多数寄せていただきました。心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に罹患された方、関係者のみなさまに心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い収束とみなさまのご健康を心からお祈り申し上げます。

6月より順次公開予定

ミニレクチャーを動画配信します!

千里文化財団の理事長である中牧先生のミニレクチャーを、友の会のホームページで動画配信します。いつでもどこでも友の会をお楽しみください。

話者：中牧弘允
千里文化財団理事長、民博名誉教授



<https://www.senri-f.or.jp/tomomovie000/>

第1回 梅棹忠夫が残した「こざね」とはどういうものか

民博初代館長 梅棹忠夫が残した「こざね」と称する手書きのメモ。知的生産のために駆使した技術のひとつです。その「こざね」を手がかりに、幻に終わった著作『日本人の宗教』の復元にいどみました。初回は「こざね」とはどういうもので、どう使うのかを紹介します。

第2回 「こざね」から復元する梅棹忠夫の『日本人の宗教』

梅棹忠夫アーカイブズに残された約350枚の「こざね」。梅棹はそれを並べ、つながりのあるものをまとめ、配列しながら『日本人の宗教』の構想を固めていました。その一例として「箱段方式」と名づけたモデルを紹介します。

ご自宅でもみんぱくを楽しんでいただくためのサイト「おうちでみんぱく」もみんぱくホームページ内で公開中です。刊行物と併せてお楽しみください!

告知 第498回 友の会講演会

福音以前の祖先の救済 —キリシタン時代の日本

講師：齋藤 晃(民博教授)
日時：8月1日(土)13:30~14:40
会場：本館2階 第5セミナー室

フランシスコ・ザビエル一行は1549年来日し、神が人類に与えた救済のメッセージを日本人にも伝えようとした。宣教師たちは福音を受け入れる人びとは死後救済されると説きましたが、日本人が懸念したのは、すでに亡くなった祖先の救済でした。神が全世界の創造主であり、全人類の救済者であるなら、なにゆえ日本における福音の公示がこれほど遅れたのか、という彼らの問いに、ザビエルらはどう答えたのでしょうか。

※友の会会員 無料(会員証提示)、一般 500円

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、急遽予定を変更する場合がございます。最新情報は友の会のホームページをご確認ください。

下記の友の会講演会は、予定しておりました日程での実施を見合わせることにいたしました。延期する場合は決定次第、改めてご案内いたします。

- 6/6(土)「アヌココロ アイヌ イコロマケル」佐々木史郎
- 7/4(土)「植物と人の関わり—タケ科植物、ヤシ科植物の道具利用を中心に」上羽陽子

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



友の会講演会 実施報告

■第497回■2月1日(土)
「コレクション展示」

博物学者 朝枝利男の生涯を追う

丹羽典生(民博准教授)

今回の講演では、朝枝利男の生涯に焦点を当てて話しをしました。朝枝利男に関係する資料としては、さまざまな探検隊のカメラマンであったこともあり、写真を第一に取りあげることができません。写真資料は豊富で、過去の優れた記録としていまにいたるも彼の活動をいきいきとつたえているのです。しかしその一方で、カメラマンは、えてしてレンズの反対側に座を占める裏方的な存在を宿命づけられることがあります。実際、朝枝の生涯には、そうした側面があります。カメラマン、剥製師、標本作成、水彩画作成など博物館の匿名的に処理されがちな仕事に従事していたこともあり、彼の個人の名前や自己が表に出ることはあまりありませんでした。

そうしたなかで、この発表では、発表者のこれまでの調査で発掘された彼自身の手によって書かれたテクニカルに注目しました。一九二〇年代から三〇年代に書かれたそれらを検討することを通じて、彼が属した知



ウミイグアナ(サンタ・クルス島アカデミー湾 1932年)
国立民族学博物館蔵

的ネットワークや社会階層、さらには彼個人が探検についてどのような感想や意見を抱いていたかなどが明らかとなるでしょう。朝枝利男の研究は大正という、個人的収集という趣味が研究と隣接することもありえた日本の歴史的時点と、アメリカの自然史博物館の栄えた探検の時代の交差点に位置づけることができます。も思われるのです。

※本紙掲載の情報は、2020年5月27日時点で決定している内容です。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。
国立民族学博物館友の会
一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>